

わが家のアイドル



蓮台寺にお住まいの
板垣 翔さん・裕未さんの

長男 ^{りゅう}龍 ^{せい}征くん(3歳2か月)
長女 ^し志 ^{より}依ちゃん(1歳)

野球が大好きな龍征と、
お兄ちゃんのことを大好きな志依です。
ふたり仲良く、元気に大きくなってね!

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。

その二 兜のような屋根
民家の中には二階の屋根がまるで兜のように見えるものがあります。この兜造りに似た屋根は下田の特徴の一つで、古い屋根形式と考えられています。



下田の古い家の特徴と言えば「なまこ壁」と「伊豆石」が思い浮かびますが、それだけではありません。今回は伝統建築の見どころの一つ、「屋根」について紹介します。
その一 寄棟屋根が基本
伝統的な下田の民家の屋根形式は、四方に勾配がある「寄棟屋根」で、風雨に強い形とされています。一方で蔵は「切妻屋根」が一般的でした。



兜のような屋根(雑忠家)

幕末から明治期に建てられた二階建ての家は、出来る限り二階部分を低く造り、建物全体の高さを抑える傾向があります。通りから見ると、屋根が低く、二階は窓が少なく小さいことに気づきます。この種の家は、なまこ壁や漆喰仕上げなど防火を意識したものが多く、海風が強く吹き、火事も多かった下田の風土を反映した建築と言えます。
その四 船大工の建てた家
下田には、かつて多くの造船場があり、船大工達が腕を振るっていました。そして、彼らは時に家も造りました。

問合せ先
生涯学習課社会教育係
☎5055



船大工が関わったとみられる強く湾曲した梁(邪宗門)



低い屋根と小さな窓(土佐屋)

船大工の技術の真骨頂は木造船の建造で培われた「木材を自在に曲げる」技術で、彼らが普請に関わったとみられる家の梁などは、強く湾曲し、見事な曲線を描いています。造船が盛んな港町ならではの技法ということが出来ます。
伝統的な技術によって葺かれた屋根には、下田の土地柄と歴史に根ざした先人の知恵と工夫が詰まっています。



「広報しもだ」は再生紙を使用しています



伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>